

創世記 46-47 エジプトでも神に信頼する

今日はヨセフがその地位に就くことで与えることが出来る救いを、ヨセフの家族が受けるのを見ます。その物語にまだヨセフは登場するのですが、今日の中心はヤコブです。ヤコブの物語は終わったわけではありませんでしたが、彼の家族が飢饉から救われることを伝えるにはヨセフの物語を伝える必要があったのです。ヤコブが人生の終わりを迎えるのは、始まりの場所とは遠く離れたエジプトでした。そこはヤコブの知る神からの約束の地から遠く離れていたために、物語は神が再びその約束を繰り返すところから始まります。創世記 46:1-4 から読み始めましょう。

「1.イスラエルは、彼に属するものすべてと一緒に旅立った。そしてベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえを献げた。2.神は、夜の幻の中でイスラエルに「ヤコブよ、ヤコブよ」と語りかけられた。彼は答えた。「はい、ここにあります。」3.すると神は仰せられた。

「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。4.このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」」祈りましょう。

これはアブラハムに与えられイサクに引き継がれたアブラハム契約が、イスラエルと呼ばれるようになったヤコブとも結ばれたもので、4度目の契約の更新となります。神はヤコブに現れるたびごとに新たな名を用いられました。ヤコブが初めて神から直接語りかけられたのは、天から梯子が下りてくる夢の中ででした。そこで神はご自身をヤハウエと名乗られました。ヤコブはそれまで神を個人的に知らなかったの、彼の祖父や父の神でおられた神は、その出会いの中でご自身について多く語られました。ヤコブが神と二度目に会ったとき、神はアブラハムとの契約を繰り返すのではなく、ラバンのもとを去って父の故郷に帰るようにと命じられました。その時神はご自身をエル・ベテル、ベテルの神と名乗られました。神はヤコブが神と出会った場所であるベテルに限らず、今ある場所でも共におられるのだから、信頼できるお方だということを示されました。神がどこに住むように言われようと、自分と共にいて下さるとヤコブは確信することが出来たのです。三度目は創世記 35 章でラケルが出産のときに亡くなる直前でした。神はヤコブにベテルに行くようにと語られ、その旅の最中に神は再びヤコブに現れ、契約の約束を繰り返されました。この時神はご自身をエル・シャダイ、すなわち全能の神と呼ばれました。旅は危険を伴い、愛する妻の死に直面することはヤコブにとってとても辛いことでしたが、全能の神はその全てを通してヤコブを支える力となりました。四度目の対面では神はご自分をエル・ハエル、あなたの父の神と呼ばれました。この名前が示したのは、もともとの一族の始祖であるアブラハムにこの地を約束した神とご自分が同じ神であるということでした。これは重要な事です。なぜならヤコブがエジプトに留まるのではなく、約束の地に帰ることを明らかに意図していることが創世記の終わりまで明確にされているからです。この契約と約束の地を最初に定められたのは神ご自身であったことを示すことによって、今この地を離れてエジプトに向かえという指示が、神の大きなご計画の一部であることを神はヤコブに確信させられました。神が御心を変えられたのでも、目的を変更されたのでもありません。

これを読む私たちは、ヤコブが見ていたであろうよりも更に大きな全知全能の神の摂理を見ることが出来ます。創世記 15:13 で、神はアブラハムと最初に契約をされたとき、こう言われました。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。」つまり、アブラハムの家族が約束の地にはいない期間があることを告げられたのです。その期間は 400 年であると告げられました。そして、その場所で苦難や虐待を受けることも告げられました。ですが、その場所の名前は告げられませんでした。今、その場所がエジプトであることを神は明らかにされたのです。創世記は私たちの神が約束を守られる神であることを様々な形で明確に示してきました。たとえその時が何百年後、何千年後であろうと、ある場所ある時に神が語られたことは全て実現するのです。神はアブラハムにそのことを伝える必要はありませんでした。ですが、後にそれを読む私たちのた

めに、神の約束と約束の成就のための神の摂理を見ることができるよう、そのような事をアブラハムに伝えられたのです。

それで、この飢饉からヤコブとその家族が救われるのを見ます。聖書には、彼らがどのように救われたのか、エジプトへの旅の詳細が記されています。創世記 46 章の 5 節から読み進めましょう。「5.ヤコブはベエル・シェバを出発した。イスラエルの息子たちは、ヤコブを乗せるためにファラオが送った車に、父ヤコブと自分の子どもたちや妻たちを乗せた。6.そして、家畜とカナンの地で得た財産を携えて、ヤコブとそのすべての子孫は、一緒にエジプトにやって来た。7.彼は、自分の息子と孫、娘と孫娘、すなわちすべての子孫を、一緒にエジプトに連れて来た。」ここで 8 節から 25 節に渡って、カナンからエジプトに共にやって来た家族全員の名前が順に挙げられています。そして 26 節でその人たちをまとめてこう記されています。「26.ヤコブに属する者、彼の腰から生まれ出た子でエジプトにやって来た者は、ヤコブの息子たちの妻を除いて、全部で六十六人。27.エジプトで生まれたヨセフの子は二人である。エジプトに来たヤコブの家族は、全部で七十人であった。」

このエジプトに移動した人たちの人数は重要です。70 人というのは、イスラエルの民がエジプトに移動した時の人数です。ですが、彼らの体験した救いというのは飢餓から守られることに留まりませんでした。出エジプト記がその 400 年後から始まる時、エジプトという国がこの小さいながらも成長の途中であった家族にとって、その繁栄に最適な場所であったことが分かります。民数記の中でエジプトから出てきた人々の人数が語られていますが、民数記 1:46 によれば「登録された者の総数は、六十万三千五百五十人であった。」とあります。これはあくまでも 20 歳以上の男性の数ですから、その人数を正しく解釈しているとは言い切れません。この数字は実際の数よりも小さいと思われます。ですが女性と子供を加えれば、神がこの家族のために備えて下さった未来のために用いられた場所で、この 70 人が急増していったことがよく分かります。

29-30 節ではヨセフと父親との喜ばしい再会が描かれています。「29. ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、首にすがって泣き続けた。30. イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。おまえがまだ生きていて、そのおまえの顔を見たのだから。」」この再開がどんなに素晴らしいものであったか想像できますか。死んだと信じていた息子に再会できたヤコブの気持ちは、到底言葉では表現することができないと思います。このことは、彼がそれまでに経験したことのないような方法で彼を満たしました。自分の救済者となった息子に会うことで、死んでも良いと思ったのです。救い主に対する私たちの応答は喜びだけです。イエスの内において、イエスと共に生きる人生への応答は喜びであるとイエスは教えています。ヨハネの福音書 15:11 は「わたしの喜びがあなたがたのうちであり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。」と言っています。私たちはキリストとの関係の中に人生最大の喜びを見出しますが、聖書には神が喜ばれるのは、私たちがキリストと共にあり、キリストに従うことであるという驚くべき真理が何度も繰り返されています。私たちが放蕩息子の話として知っているもう一つの再開の物語の中で、私たち皆の姿である失われた息子、罪深い息子のたとえをイエスは語っておられます。けれど、息子がついに自分の罪を認め父のもとに戻ってくるとき、神に対する悔い改めとそれに続く喜びの姿を私たちは見ます。ルカの福音書 15:21-24 にはこうあります。「『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』22.ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。23.そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。24.この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』こうして彼らは祝宴を始めた。」イエスがこの祝宴の場面を通して伝えたかったことは、ルカの福音書 15:10 で「一人の罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちの前には喜びがあるのです。」とパリサイ派の人々に語ったのと同じことでした。も

しあなたがイエスを知らないとしたら、人生最大の再開の機会を逃しています。そしてその再開を果たすかどうかにはあなたの人生はかかっています。

創世記のこの箇所では語られている再開は、兄弟たちと父が戻ったことをヨセフがファラオに知らせ、33-34 節で彼らにファラオに対して何と話せばよいのかを指示するところから始まります。「33.もしファラオがあなたがたを呼び寄せて、『おまえたちの職業は何か』と聞いたなら、34.こう答えてください。『しもべどもは若いときから今まで、家畜を飼う者でございます。私たちも、また私たちの先祖も』と。そうすれば、あなたがたはゴシェンの地に住めるでしょう。羊を飼う者はみな、エジプト人に忌み嫌われているからです。」そして47 節で彼らはファラオに会い、6 節でファラオがヨセフの言ったとおりの反応をします。「エジプトの地はおまえの前にある。最も良い地に、おまえの父と兄弟たちを住ませなさい。彼らをゴシェンの地に住ませるがよい。彼らの中に有能な者たちがいるのが分かったなら、その者たちを私の家畜の係長としなさい。」どうやら当時のゴシェンはエジプトの一部であったものの、羊飼いや家畜の世話をする人たちだけが住んでいたようです。普通のエジプト人はそこに住みたがりませんでした。それは家畜を飼っているような荒くれた汚れた人間とは関わりを持ちたくなかったからです。そのような環境であれば、少なくともしばらくの間は、イスラエルの民が比較的干渉を受けずに繁栄することができました。また普通のエジプト人はこの場所に近づこうとしないので、民族の壁を越えた結婚もあり得ず、最初にやってきたイスラエルの一族は周りの文化にかき消されることなく成長を続けました。

こうしてヨセフの家族は救われました。47 章を読み進めると、飢饉が拡大するとともにこの家族を取り巻く世界に起こる変化が見えてきます。13 節では「飢饉が非常に激しかったので、全地で食物がなくなり、エジプトの地もカナンの地も飢饉によって衰え果てた。」とあります。ヨセフはこの飢饉に対して、民主主義的な政治体制だったり政治の社会主義的観点から私たちが見ると拒否反応を起こしてしまいそうな方法で対応しました。ですがそれは権力を誇示する王が支配する国家にとりてはもっともな方法でした。ヨセフは食料をお金と交換し、お金がなくなったら動物と交換し、更に土地と交換し、奉公や奴隷となるまで求めました。20-21 節ではヨセフの努力の結果をこう記しています。「20. それでヨセフは、エジプトのすべての土地をファラオのために買い取った。エジプト人に飢饉が厳しかったので、人々がみな、自分の畑地を売ったからである。こうしてその土地は、ファラオのものとなった。21. また民については、エジプトの領土の端から端に至るどこでも、彼らを町々に移動させた。」そのためヨセフの管理の下、エジプトの人々だけでなく財産も全てが支配者であるファラオのものとなりました。また、飢饉を乗り越えエジプトに永続的に収益をもたらすよう計画しました。23 節ではヨセフが人々にこう語っています。「見よ。私は今、おまえたちとおまえたちの土地を買い取って、ファラオのものとした。さあ、ここに、おまえたちのための種がある。これをその土地に蒔きなさい。24. 収穫の時になったら、その五分の一はファラオに納め、五分の四は自分のものとしなさい。畑の種にするため、自分の食糧にするため、家の者のため、また扶養すべき者たちの食糧のために、そうしなさい。」

そこには彼の家族とエジプトという国がヨセフによってどのように救われたかが示されています。ですが、ここで見ていただきたいのは47 章の終わりにあります。46 章の始めでは、神がアブラハムとの契約をヤコブに再び告げるところかた始まっていたのを思い出してください。創世記の残りの部分はヤコブの人生は終わりを迎えますが、ここ47 章の終わりから彼の人生における一つの大きな真理をまとめています。彼は神の約束を信じました。約束の地を去るにあたり、神が自分に与えてくださった契約を信じたのです。28-31 節を見て下さい。「28. ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブが生きた年月は百四十七年であった。29. イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のもの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。30. 私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬って

くれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言われたとおりにいたします。31. イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。」ヤコブは神の約束に基づいて、いつか自分の家族がエジプトを出て約束の地に戻ることを固く信じていました。400年もの後であることと知っていたでしょうか。おそらく知らなかったでしょうが、それでも必ずそうなることと信じていました。

ヤコブの応答から私たちが問うべきはこの問いです。私たちは神の約束を信じているでしょうか。神は救いを与えてくださいました。そしてその救いが意味することの一つは、エジプトがヤコブの家族にとって仮の住まいであったように、この世も私たちの仮の住まいに過ぎないという事です。イエス・キリストを知ることは、この世から解放されることを信じる事です。聖書の残りの部分を読むと、イスラエルの歴史においてこの時代はエジプトが彼らにとっての救いの場所であったことは明らかですが、重要なのは400年後に彼らがエジプトを脱出したことです。その当時のエジプトは罪の奴隷となり破滅に向かう世界と社会体制の型であったことが、聖書の大部分で示されています。それはヨハネの黙示録11:8でエルサレムの人々がキリストを死に至らしめる場面に明確に見ることができます。「彼らの死体は大きな都の大通りにさらされる。その都は、靈的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれ、そこで彼らの主も十字架にかけられたのである。」また別の箇所では、イスラエルの民がエジプトを去ることを救いの象徴として描いています。ミカ書6:4では私たちの救いをそのことと比較しています。「わたしはあなたをエジプトの地から上らせ、奴隷の家からあなたを贖い出し」

ヤコブはエジプトが自分の最後の安住の地ではないと信じて生きました。自分の家族がいつかそこを去るという神の約束を信じました。私たちの住んでいるこの世界が、本当の故郷ではないと神が言っておられることを、私たちは信じているでしょうか。ペリピ人への手紙3:20に「しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。」とあるのを信じているでしょうか。ヤコブのように、私たちにとってエジプトであるこの地上を離れて、真の故郷である天の御国で永遠に過ごすことを待ち望んでいるでしょうか。残念ながらヤコブの子孫たちはエジプトであまりにも快適に過ごすようになってしまいます。エジプトにおける奴隷生活から解放された後でさえ、「約束の地に行くのは大変だからエジプトに帰りたい」と砂漠でモーセに愚痴を言います。イスラエルの民がエジプトに対して抱いた思いとは違って、聖書は神が私たちにこの世で生きることを望んでおられるけれど、この世が教えることやこの世が与えることを受け入れたり、安住することを望んでおられないと教えています。イエスご自身がヨハネの福音書17:14-16でこのように祈られました。

「14. わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。15. わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。16. わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。」私たちはいつかこの世から解放されますが、それまでの間、神は私たちが違う生き方をすること、この世のルールではなく神の御国のルールに従って生きることを期待されます。それを本当に信じて、この真実に生き、また死ぬことが出来るでしょうか。もし今ここにおられて、あなたがイエス・キリストを知っていらっしゃらないなら、あなたはこの世というエジプトに捕らわれている人です。世界中のニュースを見聞きすると、至る所に罪の影響を見ることができると思います。イエス・キリストとの関係がなければ、この世で目にする問題をいかに解決しようとしても、聖書が「今の悪の時代」と呼ぶ世の一部であり続けるのです。ですがイエス・キリストは十字架の死によって私たちを罪の束縛から、そしてこの世の絶望と奴隷状態から救ってくださいます。ガラテヤ人への手紙1:3-5はこう言っています。「3. 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。4. キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。5. この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」あなたは神が解放してくださるといふ約束、御子イエス・キリストを信じていますか。

Genesis 46-47 Trusting God even in Egypt

Today we are going to see Joseph's family receive the salvation that Joseph was sent to the throne to provide. While Joseph still has parts left to his story, the central focus returns to Jacob. Really it never left, but the story of his family's salvation from the famine required telling the story of Joseph. As Jacob finishes up his life, it ends in Egypt a very different place than where it began. Because of this distance from what he knows to be God's place of promise, the story begins with **God repeating his promise again**. Let's begin by reading Genesis 46:1-4.

46 So Israel took his journey with all that he had and came to Beersheba, and offered sacrifices to the God of his father Isaac. ² And God spoke to Israel in visions of the night and said, "Jacob, Jacob." And he said, "Here I am." ³ Then he said, "I am God, the God of your father. Do not be afraid to go down to Egypt, for there I will make you into a great nation. ⁴ I myself will go down with you to Egypt, and I will also bring you up again, and Joseph's hand shall close your eyes." Let's pray.

This is the Abrahamic Covenant repeated again that started with Abraham, was repeated to Isaac and now for the 4th time renewed with Jacob or Israel as he is now called. Each time that God has appeared to Jacob he uses a different name for himself in those encounters. The **first time** Jacob hears from God directly was in his dream of a ladder coming down from Heaven. There God calls himself *Yahweh*, the personal name for God. Jacob did not know God personally before this, so there is more of personal introduction used as Jacob meets the God who his grandfather and father served. The **second time** Jacob has a personal encounter with God is not a repeat of the promise to Abraham, but a command to leave Laban and return to his father's homeland. In that encounter, God introduces himself as *El-Bethel* or the God of Bethel. God was still with him in this land and not restricted to Bethel where he met God, so he can trust him. He can be assured that wherever God tells him to make his home, God is with him. The **third time** is Genesis 35 right before we are told of Rachel's death in childbirth. God has told Jacob to go to Bethel, and on that journey God appeared to him again repeating the Covenant promises. That time, he calls himself, *El Shaddai* or God almighty. The journey could have been dangerous, and what he will face in the death of his beloved wife, will be very difficult for Jacob, but God who is all powerful will be the strength that sustains him through it all. Here for the 4th interaction, God introduces himself as *El-Ha'El*, the God of your father. The point of this name is to show that he is the same God who originally promised this land to the founder of the family, Abraham. This is important, because what is clear until the end of Genesis is that Jacob is clearly focused not on remaining in Egypt, but returning to this promised land. By pointing back to the fact that it was God who originally established this covenant and promise of this land, God was assuring him that the instructions to now leave the land and go to Egypt are part of that big covenant plan. This is not a change of mind or purpose on God's part.

For us as the reader, we see even a bigger picture of God's all knowing providence than even Jacob likely saw in this. In Genesis 15:13, as God is making the original Covenant with Abraham, he tells him, "Know for certain that your offspring will be sojourners in a land that is not theirs and will be servants there, and they will be afflicted for four hundred years. So, God tells Abraham that there will be a period where Abraham's family will not be in the land. He tells him that that period will last for 400 years. And he tells him that they will be afflicted or abused in that place. What he does not tell him was the name of the place. Now, God reveals that place as the nation of Egypt. The book of Genesis has made this point very clear in many different ways, that our God is a promise keeping God. Whatever he says in one place and time will come to pass, even if that timing is hundreds or even thousands of years later. God did not have to give that bit of information to Abraham, but for the sake of

us as the reader, he does so we can see his promise and his providence in fulfilling that promise.

And so, we see Salvation happen for Jacob and his family from this famine. And the Bible gives us the detailed description of this trip to Egypt that accomplishes their salvation. Let's continue reading at verse 5 of Genesis 46. ⁵ Then Jacob set out from Beersheba. The sons of Israel carried Jacob their father, their little ones, and their wives, in the wagons that Pharaoh had sent to carry him. ⁶ They also took their livestock and their goods, which they had gained in the land of Canaan, and came into Egypt, Jacob and all his offspring with him, ⁷ his sons, and his sons' sons with him, his daughters, and his sons' daughters. All his offspring he brought with him into Egypt. At this point, from verse 8 to verse 25, all the family members are listed out by name that came with him from Canaan into Egypt. Then verse 26 summarizes this list. ²⁶ All the persons belonging to Jacob who came into Egypt, who were his own descendants, not including Jacob's sons' wives, were sixty-six persons in all. ²⁷ And the sons of Joseph, who were born to him in Egypt, were two. All the persons of the house of Jacob who came into Egypt were seventy.

This number of people moving to Egypt is important. 70 people was the number of the people of Israel as they moved to Egypt. But the salvation they were experiencing went beyond protecting them from a famine. When the book of Exodus picks up 400 years later, we find out that the nation of Egypt provided the perfect location for the growth of this small but growing family. When the numbers of people who leave Egypt is discussed in the book of Numbers, we find out in [Numbers 1:46](#) it says [46 all those listed were 603,550](#). This was just the number of men over 20, and it is not entirely clear that we have interpreted the Hebrew in the correct way since the number could be smaller. But adding in women and children, it becomes very clear that these 70 people have grown exponentially larger in this place that God is using to preserve this family for the future he has prepared for them.

Verses 29 – 30 go on to describe the sweet reunion that Joseph had with his father. **He presented himself to him and fell on his neck and wept on his neck a good while.**³⁰ Israel said to Joseph, **“Now let me die, since I have seen your face and know that you are still alive.”** Can you imagine what a wonderful reunion this was? I'm not sure words could really describe what Jacob was feeling at seeing his son that he believed to be dead. But, this fulfilled him in a way that nothing else he had ever been through. He was ready to die based on seeing his son, who became his savior. Our response to our Savior is one of joy. Jesus tells us that the response to a life lived in and with him is joy. [John 15:11](#) says, [These things I have spoken to you, that my joy may be in you, and that your joy may be full](#). And while we find our greatest joy in life in a relationship with Christ, over and over in Scripture we see this incredible truth that it is us being in a relationship with Christ and obeying him that gives God joy. In another story of reunion that we know as the Prodigal Son, Jesus tells the parable of a lost son, a sinful son that pictures all of us. But when his son finally admits his sin and returns to his father, we see a beautiful picture of repentance toward God and the joy that follows. [Luke 15:21-24](#) says, [‘Father, I have sinned against heaven and before you. I am no longer worthy to be called your son.’](#) [22](#) But the father said to his servants, [‘Bring quickly the best robe, and put it on him, and put a ring on his hand, and shoes on his feet. 23 And bring the fattened calf and kill it, and let us eat and celebrate. 24 For this my son was dead, and is alive again; he was lost, and is found.’](#) And they began to celebrate. The point Jesus is making with that celebration is the point he made to the pharisees listening to his story earlier in [Luke 15:10](#), […there is joy before the angels of God over one sinner who](#)

repents.” If you do not know Jesus, then you are missing out on the greatest reunion of your life, and your very life depends on you having that reunion.

This reunion in Genesis continues with Joseph telling his brothers and father that he is going to let Pharaoh know about their return, and he instructs them what to tell Pharaoh in verses 33-34. ³³When Pharaoh calls you and says, ‘What is your occupation?’³⁴ you shall say, ‘Your servants have been keepers of livestock from our youth even until now, both we and our fathers,’ in order that you may dwell in the land of Goshen, for every shepherd is an abomination to the Egyptians.” Then in chapter 47, they do meet Pharaoh who responds to them exactly how Joseph knew he would in verse 6. ⁶The land of Egypt is before you. Settle your father and your brothers in the best of the land. Let them settle in the land of Goshen, and if you know any able men among them, put them in charge of my livestock.” Apparently, Goshen at that time, although a part of Egypt was only inhabited by the shepherds and those taking care of livestock. Regular Egyptians did not want to live there, because they did not want anything to do with the rough and dirty people in charge of the animals. In this environment, the people of Israel could grow relatively free from interference, at least for a while. And since the regular Egyptians avoided the place, intermarriages were less likely to take place and these initial tribes or families of Israel would be able to grow without disappearing into the larger culture around them.

So, Joseph’s family is saved. As Chapter 47 continues, we see what is going on in the world around this family as the famine increases. Verse 13 says, Now there was no food in all the land, for the famine was very severe, so that the land of Egypt and the land of Canaan languished by reason of the famine. Joseph responds to the famine in a way that most of us from a more democratic political system or even a more socialist understanding of government would reject, but was totally in keeping with a nation ruled by a king who wanted power. Joseph traded food for money, then when that was gone, he traded for their animals, then for their land and even what amounted to indentured servanthood or slavery. Verse 20-21 tells us the results of Joseph’s efforts 20 So Joseph bought all the land of Egypt for Pharaoh, for all the Egyptians sold their fields, because the famine was severe on them. The land became Pharaoh’s. 21 As for the people, he made servants of them from one end of Egypt to the other. So, through Joseph’s management, everything in Egypt including the people and property came under the ownership of the ruler, Pharaoh. Joseph also though, planned the way to overcome the famine and provide permanent income for the nation of Egypt in the future. Verse 23 ends with Joseph telling the people, “Now here is seed for you, and you shall sow the land. ²⁴And at the harvests you shall give a fifth to Pharaoh, and four fifths shall be your own, as seed for the field and as food for yourselves and your households, and as food for your little ones.”

All that shows how salvation was accomplished through Joseph for his family and the nation of Egypt. But the point I want us to see in this passage comes at the end of chapter 47. Remember how chapter 46 began, with God restating the Covenant or promise to Abraham to Jacob. The rest of the book of Genesis is wrapping up Jacob’s life, and it begins here at the end of chapter 47 by clearly summarizing one great truth of his life. **He believed God’s promise.** He believed that Covenant that God made with him as he left the promised land. Look at verses 28-31. 28 And Jacob lived in the land of Egypt seventeen years. So the days of Jacob, the years of his life, were 147 years. 29 And when the time drew near that Israel must die, he called his son Joseph and said to him, “If now I have found favor in your sight, put your hand under my thigh and promise to deal kindly and truly with me. Do not bury me in Egypt, 30 but let me lie with my fathers. Carry me out of Egypt and bury me in their burying place.” He answered, “I will do as you have said.” 31 And he said, “Swear to

me”; and he swore to him. Then Israel bowed himself upon the head of his bed. Jacob firmly believed based on God’s promise, that one day his family would leave Egypt and return to the promised land. Did he know it would be 400 years? It seems he did not, but he believed it would happen.

The application for us in Jacob’s reaction is this. Do we believe God’s promises? God provided salvation, and part of that salvation means that this world is only our temporary home, just as Egypt would be the temporary home for the people of Israel, Jacob’s family. To know Jesus Christ is to believe that there is deliverance coming from this world. Throughout the rest of Scripture, while it is clear that Egypt is the place of salvation for the Israelites at this point in their history, it is their escape from Egypt 400 years later that most of the focus is on. Egypt then in most of Scripture is shown to be a type of the world and the world system that is enslaved to sin and headed to destruction. We see it clearly in [Revelation 11:8](#) where it describes the people of Jerusalem when they put Christ to death. “...their dead bodies will lie in the street of the great city that symbolically is called Sodom and Egypt, where their Lord was crucified.” Other places describe the Israelites leaving Egypt symbolically as salvation. [Micah 6:4](#) compares our salvation to it. [4For I brought you up from the land of Egypt and redeemed you from the house of slavery.](#)

Jacob lived like he believed that Egypt was not his final resting place. He believed God’s promise that his family would leave. Do we believe God when he says this world we live in is not really our home. Do we really believe what [Philippians 3:20](#) says “[20But our citizenship is in heaven, and from it we await a Savior, the Lord Jesus Christ...](#)”? Are we expecting like Jacob to leave this Egypt, this earth and spend an eternity in Heaven, our true home. Unfortunately, in future generations, Jacob’s family would get far too comfortable in Egypt. Even after being delivered from what becomes slavery in Egypt, they complain to Moses in the desert saying they want to return to Egypt because going to the promised land was too difficult! Contrary to how the Israelites acted towards Egypt, the Bible explains that God wants us to live in the world but not in a way that gets comfortable or accepting of what the world teaches and what the world offers. Jesus himself prays in [John 17:14-16](#) [14 I have given them your word, and the world has hated them because they are not of the world, just as I am not of the world. 15 I do not ask that you take them out of the world, but that you keep them from the evil one. 16 They are not of the world, just as I am not of the world.](#) One day, we will be delivered from this world, but in the meantime, God expects us to live differently, to live according to the rules of his kingdom, not the rules of the world around us. Do we really believe this, enough to live...and die by this truth? If you are here today and don’t know Jesus Christ, then you are a prisoner of this world, this Egypt. And when you look at news from around the world, you see the effects of sin everywhere. Apart from a relationship with Jesus Christ, no matter how much you try to fix the problems you see in this world, you remain a part of what the Bible calls this present evil age. But Jesus Christ delivers us from the bondage of sin and the hopelessness and slavery of this world through his death on the cross. [Galatians 1:3-5](#) says, “...the Lord Jesus Christ, [4 who gave himself for our sins to deliver us from the present evil age, according to the will of our God and Father, 5 to whom be the glory forever and ever. Amen.](#) Are you believing God’s promise of deliverance, which means that you have believed in his Son, Jesus Christ?